

## 8. 消防署における看護学生の学びと指導の実践報告

○岡本 華枝（関西福祉大学看護学部），木村 隆彦（赤穂市消防本部）

### I. はじめに

超高齢社会の到来や疾病構造の変化に伴い、看護に求められるニーズは高度化・多様化している。救急医療での看護師は、常に予測性、準備性、即応性を持った対応が求められる。そこで、患者の生活の場に出動し、生活様式を確認したうえで、傷病の経過や病歴、さらに今後の希望等を短時間に聞き取り、医療機関への受入交渉を経て搬送する消防救急隊に着目した。本学の看護学生のインターンシップとして消防署で、救急医療の現状について触れ、臨床的な視点での学習効果の向上を図ることで、患者の側に立った高度な看護スキルの確立を目指すものである。さらに、地域の安全・安心の要として、市民の命と直接向き合う業務を学ぶことは、看護職者としての資質向上にも寄与すると期待した。その結果、学生が救急ばかりではなく消防業務の全てに渡り、多くの学びを得たので報告する。

### II. 概要

1. 目標：消防の病院前救護体制や医療機関との連携の現状について知る  
地域住民のための防災、災害予防等の消防の役割について学ぶ  
消防現場における統合的な知識と技術を看護の視点で理解を深める
2. 期間：平成27年8月17日（月）～8月21日（金） 5日間
3. 対象：看護学部4年次生6名
3. 内容：総務課：オリエンテーション、実習調整  
予防課：事業所における立入検査  
警防課：消防・救助資器材取扱い、通信指令室見学、救助訓練、DMAT訓練  
救急課：救急車清掃・消毒、救命講習受講、ドクターヘリ見学、その他  
救急車同乗：救急事案発生時は2名組で定めた順序に従って同乗し、出動する
4. 倫理的配慮：学生に個人が特定されないこと、学生自身に不利益は生じないことを説明し口頭で承諾を得て、日々の記録と最終日の発表内容から学びを検討した。

### III. 学びの内容

消防署が作成したカリキュラムは消防業務全般にわたる実習が網羅されており、学生は火災予防・応急手当の普及など、災害や傷病の軽減に努める業務の実際を学んだ。そして、救急現場では傷病者への処置、患者や家族への接し方や情報収集のあり方、医師や看護師への情報提供手法を見学した。さらに、学生は通報段階から重症度・緊急度を的確に判断し、隊員間で救命処置手技の確認を行うことや、他隊による活動支援体制がシステム的に行われるなど、傷病者の命を守るために、救急隊だけではなく全ての職員による総力的活動の現状を学ぶことができた。そして、絶えず患者と向き合い、声掛けを行うことで、患者や家族の不安が軽減し、短時間で信頼を得ることに繋がり、看護職者に必要なコミュニケーションが構築されることを理解することができた。

### IV. おわりに

看護師を目指す学生の有意義な学びの場として消防署での実習を行った。その結果、全ての経験が看護に影響を及ぼすことを確信した。今後も継続的に消防署実習が行えるよう尽力したい。